

シャネル・アンバサダー

Isabelle Morel-Verzeroli(イザベル・モレル・ヴェルゼロリ)

ロレアル本社から東京に派遣され、アルマーニやシュウ・ウエムラを担当していたイザベルは、ご覧のとおり、美しく素敵な女性。しかも教養とユーモアにも溢れている。そんな彼女との出会いは2008年、東京でのことだった。一緒に仕事するようになり、意気投合し、今や私の親友でもある。彼女のご主人は、3つ星レストランのシャトゥ・レストラン、ジョエル・ロビュシヨンのシェフ、Alain Verzeroli(アラン・ヴェルゼロリ)だ。東京でアランと出会ったイザベルは、ロレアルを辞めて再来日しアランと結婚。ロレアル時代に東京で仕事をしたことで、日本と日本人が大好きになってしまった彼女は、アランとの結婚で、日本に永住すると言い切る。それは単に親日家と言うよりも、日本人に対する深い愛情と尊敬の念が彼女にはあるように思う。

3月11日後、多くのフランス人が日本を離れてしまった。私は3月21日-4月10日迄パリ出張だったため、イザベルもフランスに戻っているのではと思い、何度か連絡をするが、震災直後にお互いの無事を確認してから全くの音信不通となってしまった。4月に帰国してからも連絡し続けたが返事はなかった...





私はとうとうロブションに電話してシェフのアランが元気になっていることを確かめ、イザベルの様子を聞くと、何と彼女は何度も被災地の炊き出しに参加して大忙しだったのだ。

心ある日仏の料理人が立ち上げたボランティア団体で、彼女は炊き出しだけでなく、ホームページの作成も担当していたのだった。脱帽だ！

久しぶりに彼女とランチした時、被災地での体験をはなしてくれた彼女の目には涙が一杯...

被災者の皆さんの冷静さ、辛抱強さ、お互いへの思いやり、ボランティアへの感謝と気配り、イザベルは心から日本人の素晴らしさに感動したようだ。そして、日本人からは、人間として学ぶべきことばかりだと... 真剣に語ってくれた。

そんな彼女がシャネルのアンバサダーとして、様々なイベントで活躍している。数あるファッションブランドの中でも、ココ・シャネルをDNAに持つシャネルは、シャネル自身を投影した明確な女性像を持っている唯一のブランドだ。

自立し、聡明で、チャレンジ精神に富んだモダンでシャープな女性のイメージ... それは、シャネルが創設された20世紀初頭には、まだ「色」として認識されていなかったモノクロをブランドカラーにしたことや、数字を香水のネーミングにしたという大胆さからも感じられると思う。そしてそんなイメージを持っているイザベルだからこそ、シャネル・アンバサダーは適任なのだ！